

No.	作者名	作品名	作品名（英訳）	寸法 縦×横mm	制作年代	制作年和暦	技法	材質	所蔵者	
1	誕生	1905年、宮本三郎は石川県小松市松崎町に生まれました。松崎町は、三つの潟湖（今江潟・柴山潟・木場潟）の中心に位置し、潟湖を行き交う舟は、農業、漁業、人々の生活を支える交通手段であり、子どもたちの遊び場でもありました。《舟遊び》は、宮本の幼少期の思い出を描いた作品です。								
		宮本三郎	舟遊び	Playing Boat	215 × 320	1945年	昭和20年	水彩	紙	宮本三郎美術館
2	上京	宮本は、画家を目指して、15歳の時、異母兄弟の伊次郎氏が住む神戸へ移住します。2年後上京し、藤島武二が主任教官を務める川端画学校洋画部で本格的に洋画技法を学びました。安井曾太郎が所属していた二科展を中心に発表を重ね、1935年《婦女三容》で推奨を受けました。								
		宮本三郎	婦女三容	Three Ladies in Different Poses	1520 × 2097	1935年	昭和10年	油彩	キャンバス	宮本三郎美術館
3	従軍	展覧会出品作品を制作しながら新聞や雑誌の挿絵を多数手がけた宮本は、多忙のため体調を崩してしまいます。1938年、休養と勉強を兼ね、フランス、イタリア、スイスなどヨーロッパ諸国をめぐりますが、第二次世界大戦がぼっ発し、帰国を余儀なくされます。帰国後すぐに戦争記録画制作のために北支、香港、シンガポールなど中国、東南アジアに従軍しました。								
		宮本三郎	兵士	Soldier	266 × 178	1944年	昭和19年	水彩	紙	宮本三郎美術館
4	疎開	終戦間際、1945年、病気を理由に郷里石川県に家族とともに疎開します。小松、美川、金沢と転居し、風景や家族を主題に柔らかい色調で描きました。《窓辺の女》は金沢の洋館で妻の文枝さんをモデルに描いた作品です。《清流》は松尾芭蕉も訪れた名勝鶴仙溪（加賀市山中温泉）を描いた作品です。								
		宮本三郎	霧の朝（柴山潟）	Foggy Morning (Shibayama-Lagoon)	606 × 725	1946～1947年頃	昭和21～22年頃	油彩	キャンバス	宮本三郎美術館
		宮本三郎	窓辺の女	Woman by the Window	729 × 529	1945～1948年頃	昭和20～23年頃	油彩	キャンバス	宮本三郎美術館
		宮本三郎	清流	Clear Stream	665 × 1058	1947年	昭和22年	油彩	キャンバス	宮本三郎美術館
5	再び、東京へ	1948年、東京都世田谷区奥沢のアトリエに戻った宮本は、戦後急激に経済成長を遂げる東京の都市風景や生命力あふれる植物、女性を題材として、艶やかで濃厚な色彩の作品を発表しました。特に裸婦は晩年のテーマである”生の輝き”を象徴する画題であると語っています。								
		宮本三郎	更紗の前	Nude on Calico Printing Cotton	910 × 1168	1968年	昭和43年	油彩	キャンバス	宮本三郎美術館
		宮本三郎	舞妓	Maiko	531 × 454	1969～1972年頃	昭和44～47年頃	油彩	キャンバス	宮本三郎美術館
		宮本三郎	百花繚乱	Many Flowers Blooming in Profusion	804 × 654	1970年	昭和45年	油彩	キャンバス	宮本三郎美術館